

令和4年度(2022年度)第6回川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)12月17日(土)9:30~12:00
場所	川口中学校1階 被服室
出席者	参加者：荒井、稲原、大石、久保、白鳥(信)、田倉、外山、内藤(佳)、内藤(妙)、内藤(ト)、中尾、中村、平井、古田、前川、安田、山口 高齢者あんしん相談センター川口：小林、太田、長内 第1層生活支援コーディネーター：今泉 はちまるサポート川口：田中 川口中学校校長：鷲尾 川口小学校校長：石川 未来デザイン室：野田、安齋 (株)RPI：岩崎、笠原、伊藤、高尾
見学者	八王子未来CAN-VAS：石井
配付資料	・令和4年度(2022年度)第6回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 地域づくりフォーラム意見交換内容 ・資料2 地域づくり推進計画(改定版)(案)

1 開会

未来デザイン室から挨拶。

2 本日の議題確認

会議資料をもとに、本日の検討事項を確認。

3 議題

(1) 地域フォーラムの振り返り

会議資料の3ページをもとに、11月26日(土)に開催した地域フォーラムで出た主な意見や、提案について共有した。出席者からの意見については以下のとおり。

- ・フォーラムには中学生も参加しており、前向きな意見があった。中学校に出向いて中学生から話を聞く機会があっても良いのではないかな。
- ・活動内容の共有が推進会議参加者だけで留まっており、川口のほとんどの人は知らない。どう伝えていくかが課題である。中学生からは、「フォーラムに参加するまで、推進会議のことを知らなかった」という意見もあった。全世代に情報をどうやって伝えていくかを考えていく必要がある。
- ・第5回推進会議でSNSの開設の話をしたが、アカウントの管理を考え、一旦開設を保留している状況。一方、フォーラムに参加した中学生からは、情報発信に「Twitter」「Instagram」を使うべきという意見や、毎日情報が発信されていないと見なくなるという意見もあった。
- ・SNSの運用は専任の係がないと難しい。
- ・ボランティアで担うには限界がある。例えば、SNS発信担当として部分的に中学生等に関わってもらえると良いのではないかな。

(2) 運営担当打ち合わせの報告

会議資料の4ページをもとに、第5回推進会議や地域フォーラムの意見・提案を踏まえたアクションプランや推進会議のしくみなどに関する打ちあわせを12月1日(木)に実施し、その結果について共有した。

(3) 部会の設定と推進会議のあり方を検討しよう

会議資料の5ページをもとに、推進会議の体制や部会の構成、役割について事務局より説明した。参加者との主な意見交換内容は、以下のとおり。

- ・部会の兼務は可能か。
兼務は可能。また、全体会議には参加しないが、複数の部会に参加するといった形があっても良いのではないかと。(RPI)
- ・学校再編に関する部会はいつから開始するのか。検討時には、各学校のPTAの参加が必要となる。
設置する時期は、推進会議の意向や担当所管の状況を踏まえて決定していきたい。現在の事務局としては、令和6年度(2024年度)を想定している。(未来デザイン室)
関係所管から説明があつてからでは、議論しても意味がない。市側の関係所管による検討と並行して地域における議論を進め、地域としての考え方を示しながら、計画等に落とし込んでいくという流れが良いのではないかと。(参加者)
- ・公共施設部会における議論の中心は何になるのか。小中一貫校のあり方についてなのか。
八王子市は小中一貫校が基本。私案としては、今後再編していく学校をすべて義務教育学校にした方が良く考えている。しかし、学校再編には予算もかかるため、財政的に難しい状況にあることは承知している。(参加者)
行政としてどういう点について意見をいただきたいか、いつから検討を開始していくのか等については、第7回推進会議で担当所管課から説明できるよう調整していく。(未来デザイン室)
- ・公共施設部会という名称を設定した背景には、義務教育学校だけでなく、公共施設の跡地の活用等についても考えていきたいという思いがあるのではないかと受け取った。そういった受け止めが正しいのであれば、地域としても一緒に考えていきたい。
- ・特別な支援が必要な児童生徒が9%ほどと言われている中で、そうした子どもたちへの支援の在り方も含めて考えていく場となるような「公共施設部会」にしたい。
- ・松枝小学校は、川口と檜原の半々の児童が通っている。こうした複数のエリアにかかる地域の学校を検討する際には、川口だけでなく、檜原も含めて議論を進めていく必要がある。
- ・令和5年度(2023年度)からは、檜原と連携して議論していけば良いのではないかと。
檜原中学校区とともに議論することについては、今後検討していきたい。(未来デザイン室)
- ・これまでの議論を踏まえ、4つの部会の設置については、了解いただいたということ良いか。(未来デザイン室)
異議なし。(参加者)

会議資料の6・7ページをもとに、令和5年度(2023年度)からの推進会議の活動について事務局より説明した。参加者との主な意見交換内容は、以下のとおり。

- ・令和5年度(2023年度)以降は、会議の開催の調整・連絡を行う必要がある。この役割を担うには専従者が必要ではないか。役員会についても任期を決める必要があると感じる。推進会議に継続して参加するかどうかは、本人の参加意欲次第で良いのではないかと。
- ・役員の任期は固定ではなく、流動的にする必要があると思う。

- ・この組織は、会則や規約等を決めて運営していくような組織になるのか。任期を設定するにしても、前提として組織や委員の位置づけを明確化する必要がある。
 - 推進会議は、一つの組織として規定するのではなく、多くの団体の代表が集まって協議するプラットフォームとして位置付けるという形もある。(未来デザイン室)
 - 任期については、現状事務局で設置することは想定していない。(未来デザイン室)
- ・アクションプランに基づく取組をおこなっていくうえで、団体としての位置づけが明確でないと、資金を預けるための口座が開設できない。また、企業や団体に協力依頼等を行う際にも、組織がなければ名刺もつくれないため、話がしづらい。推進会議としてスムーズに動くためには、八王子市の承認があった方が良い。
- ・組織として成立していなければ、助成金の申請もできないのではないかと。
 - 推進会議は、要綱に基づき設置されている。なので、要綱を活用して会則を作ることが先決ではないかと。今後、組織として行政に認めてもらい、進めていくしかない。(参加者)
 - 推進会議についての要綱は制定している。今後は各地域の状況に応じ会則を策定できるようひな形をつくっていききたい。その際には、所在地や連絡先を決めていく必要があるため、今後、事務局においてそのような点を含めて整理していく。(未来デザイン室)
 - これまでも、はちまるサポート川口を活用させてほしいとお願いをしている。今後は、そこを拠点に動き出すことができれば良いのではないかと。(参加者)
 - 片手間でやっている我々では、現在の活動を行うだけでもギリギリ。令和5年度(2023年度)からは運営までのすべてを地域でやるとなると、できる人がやるということになり、組織としては弱体化していく恐れがある。(参加者)
 - 議題や何を話し合うかについても、参加者の皆様で決めていくことを想定している。そのまとめていく過程のなかで、今後の伴走の方法を考えていきたい。(未来デザイン室)
 - 資料の作り込みなどのレベル感を仮に下げたとしても、地域だけでやっていくのには限界がある。(参加者)
- ・運営担当が今後の組織の役員に自動的にスライドするのではないかと懸念される。
- ・他の地域からは、川口でマルシェを開催したことで利益が出たのではないかと話をもらうことができるが、市民センターまつりを主催する住民協議会は、利益を出してそれを活動資金とすることができないため、実際に出た売り上げは、出店者の利益となるか、寄付をいただいた分については、まとめて社会福祉協議会に寄付している。よって、マルシェ部会としての利益は出ていない。
- ・組織として確立していなければ、「情報提供を拒否される可能性がある」、「口座を開設できない」、「補助金やクラウドファンディングができない」などの問題があり、今後の活動に発展性がない。
- ・今の活動は、ボランティアではやれない領域に入ってきている印象。
- ・これまで様々な意見が出ているが、まずは、組織として確立してからでないと、話が進まない。その後、地域として補助金を申請するかどうかはそのあと検討すれば良いのでは。
 - 事務局としては、「皆さんと一緒に」という思いがある。組織の位置づけについても、こちらから一方的に決めるのではなく、皆さんと取り組むなかで考えていきたい。各地域で開催するマルシェの実施主体も、すべてが法人化されているわけではない。地域の既存組織の成功事例の仕組みやこれまでの成り立ちを把握して活用していくことも必要であると考えている。(未来デザイン室)
 - 推進会議で取り組もうとしていることは、各部会をまとめあげるような大きな組織であり、個別の部会の動きとはレベルが違うのではないかと。(参加者)

各部会を取りまとめる全体会議のあり方については、部会のあり方と並行して考えていく必要がある。(未来デザイン室)

まずは組織をとりまとめる会議体がないと、個別の部会は単なるボランティア団体でしかなくなってしまふ。(参加者)

現在市内に設置されている4つの推進会議に参加しているが、未来デザイン室の役割はあくまで自立していくための伴走支援であると理解しており、実際に主体となるのは、地域であると考えている。市内には様々な成功事例があり、そこを参考にまずはやってみることが必要ではないか。(第1層生活支援コーディネーター)

成功事例の中には、ボランティアとして行っているものもあるのか。(参加者)

ある。団体によっては、予算を一定程度確保し、NPOになった事例もある。(第1層生活支援コーディネーター)

市がすべての中学校区がボランティアとして推進会議を設置し、取り組んでいくと考えていることに疑問を抱いている。(参加者)

各部会を取りまとめる全体会議のあり方を決めることで、各部会の今後の運営ができるということが総意であれば、まずはその議論から進めていくという方向性で良いのではないか。(RPI)

令和5年度(2023年度)は、部会と並行して統括的な全体会議、もしくは組織体のあり方を検討していくということになるのか。(参加者)

まずは、組織づくりから取り組んでいくことで良いのではないか。具体的な動きとしては、口座の開設や会則の策定、参加者名簿の作成など。(参加者)

これまでの議論を振り返り、どのような役割を全体会議が担えば良いを考え、会則等を整備していくのが良いのではないか。(未来デザイン室)

事務局には、第7回推進会議までに会則のひな型を出していただきたい。それを運営会議で検討し、川口ならではのものを作り上げていきたい。(参加者)

第7回推進会議では、アクションプランや部会のことについて決定したい。そのうえで、今後、会則等のことについても検討していきたい。(未来デザイン室)

(4) アクションプランを検討しよう

第5回推進会議での検討、地域フォーラムでの意見・提案を踏まえて、アクションプランの実施内容について部会に分かれて詳細を検討した。検討後全体で共有した発表概要は以下の通り。

【マルシェ】

- ・令和5年度(2023年度)は2回開催。うち1回は住民協議会との共催を想定。別の1回は独立し開催を想定。
- ・令和6年度(2024年度)は季節ごとに4回の開催を想定。
- ・令和7年度(2025年度)以降は、常設のマルシェやイベント的に行うマルシェの開催を想定。他の地区で開催されるマルシェと連携すること検討している。
- ・令和5年度(2023年度)以降の活動に向けては、マルシェ実行委員会を立ち上げる必要がある。

【地域防災】

- ・自主防災は町会単位等で行っているが、防災訓練をやっても参加者が少ないので、防災マップを作るなどでみんなが参加できるようにしていきたい。
- ・災害時には携帯電話が繋がらなくなるので、各町会に停電時にも使用できる公衆電話を設置し

始めている。

- ・避難所の病人や外国人、子ども等への対応ができるように運営の在り方を考えたい。
- ・令和7年度(2025年度)からハザードマップ作りに取り組みたい。市と同じような情報だけでなく、公衆電話やAED、消火器の位置等を掲載したい。また、子どもの緊急時の学校からの帰宅経路も記載したい。
- ・これらの取組について地域内で対応できるように、コミュニケーションを図りながら進めていきたい。

【コミュニティカレンダー】

- ・令和5年(2023年)1～3月の案を作成した。代わり映えしない面もあるが、若い方が興味を持ってもらえるように土日祝日のイベントを中心にしつつ、学校イベントを追加した。
- ・ポイントを絞っての掲載や、若者・高齢者などの対象を明確にした方が良いのではと感じている。
- ・今のやり方では継続が厳しいため、各団体が直接情報を入力いただけるような運用方法にしたい。市のプロモーションを行う担当所管課等にノウハウを教えていただけるとありがたい。

(5) 活動・情報の共有

事務局から市民活動支援センターの出張相談会について、情報提供を行った。また、荒井氏から都市公園のアンケート回答に関する御礼があった。そのほかの連絡事項は、以下のとおり。

- ・第5回推進会議の議事概要(案)について修正等がある場合は、令和4年(2022年)12月26日(月)までに事務局へ御連絡いただきたい。
- ・令和5年(2023年)1月28日(土)に市全体の地域づくりフォーラムを実施する。活動報告の中でモデル地区の取組の紹介をする予定。ぜひ御参加いただきたい。また、コミュニティカレンダーに紹介されている地域のイベントにもぜひ参加いただきたい。
- ・第7回推進会議の開催日時を確認。

第7回推進会議：令和5年(2023年)2月18日(土) 9時30分～12時00分

以上